

# S3-09 土壌・地下水汚染の措置・対策時の技術適用に関するアンケートの集計結果について(平成28年度実態調査)

○山下 巧・河内幸夫・門間聖子・中島広志・加洲教雄・技術実態集計分科会  
 1 土壌環境センター

## 1. 調査目的

土壌・地下水環境に係る法制度および技術が年々改められてきているなか、継続的に**実際の汚染サイト毎に適用された対策事例**を収集、さまざまな技術的視点で動向を把握し技術向上の参考資料とする。

「土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン改訂第2版(2012)」を参考にして、**技術分類等を整理し**、平成22年度実績より毎年アンケート調査を実施(7年間)している。

## 2. 調査内容

### 2.1 質問項目

- ①対策の契機
- ②対象となった汚染物質
- ③選択された対策技術
- ④土壌汚染の除去の種類
- ⑤掘削除去後の処理
- ⑥原位置浄化工法の種類
- ⑦参考情報(任意)

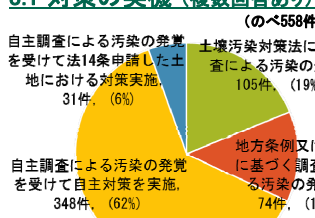
### 2.2 回答者情報

会員109社中71社から回答  
 (回収率65.1%)  
 調査票回収 516件

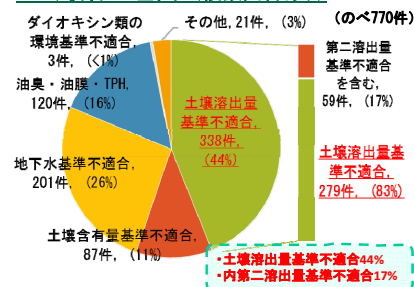
各サイト別に契機、汚染物質(複合あり)、選択した対策技術の回答を得ることで、技術動向を把握

## 3. 実態調査から得られた結果

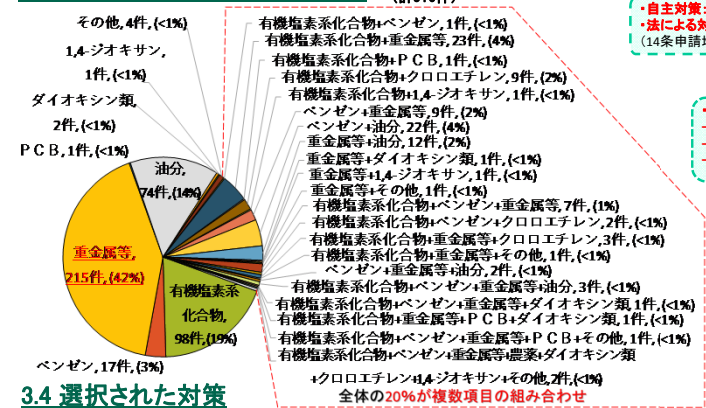
### 3.1 対策の契機(複数回答あり)



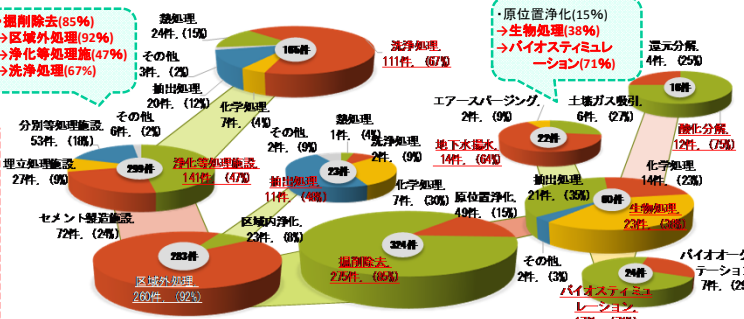
### 3.2 対策の理由(複数回答あり)



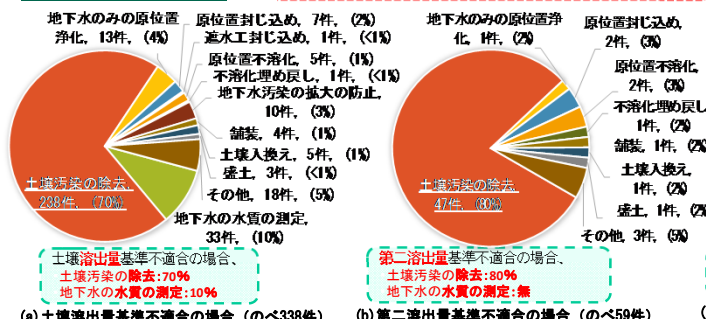
### 3.3 対策の対象となった汚染物質(計516件)



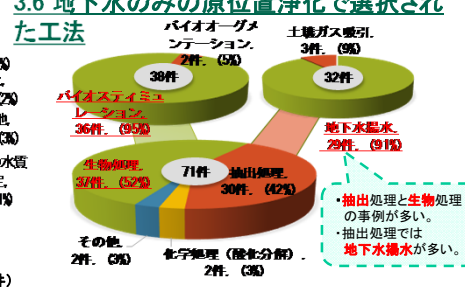
### 3.5 土壌汚染の除去で選択された処理法



### 3.4 選択された対策

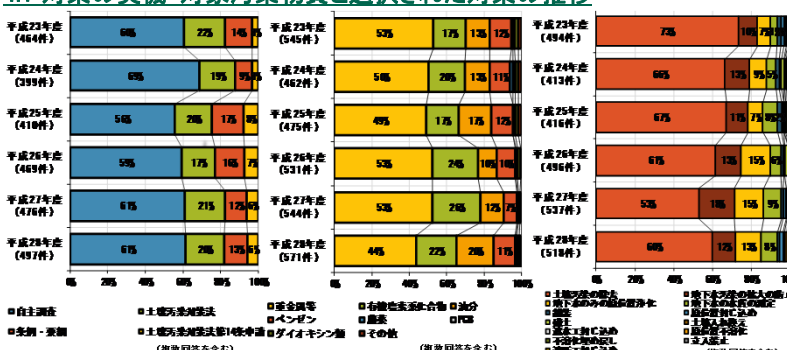


### 3.6 地下水のみの原位置浄化で選択された工法

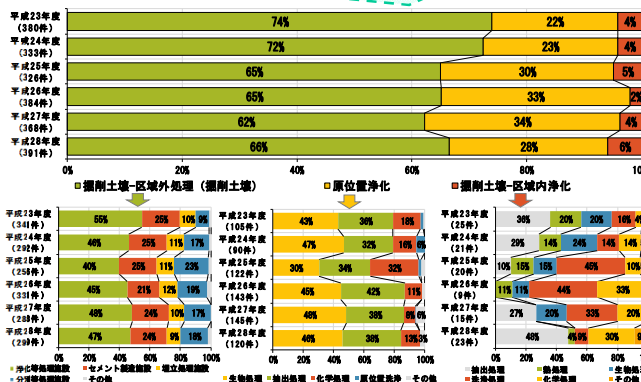


## 4. 経年推移(選択された対策のうち「その他」を除いた集計)

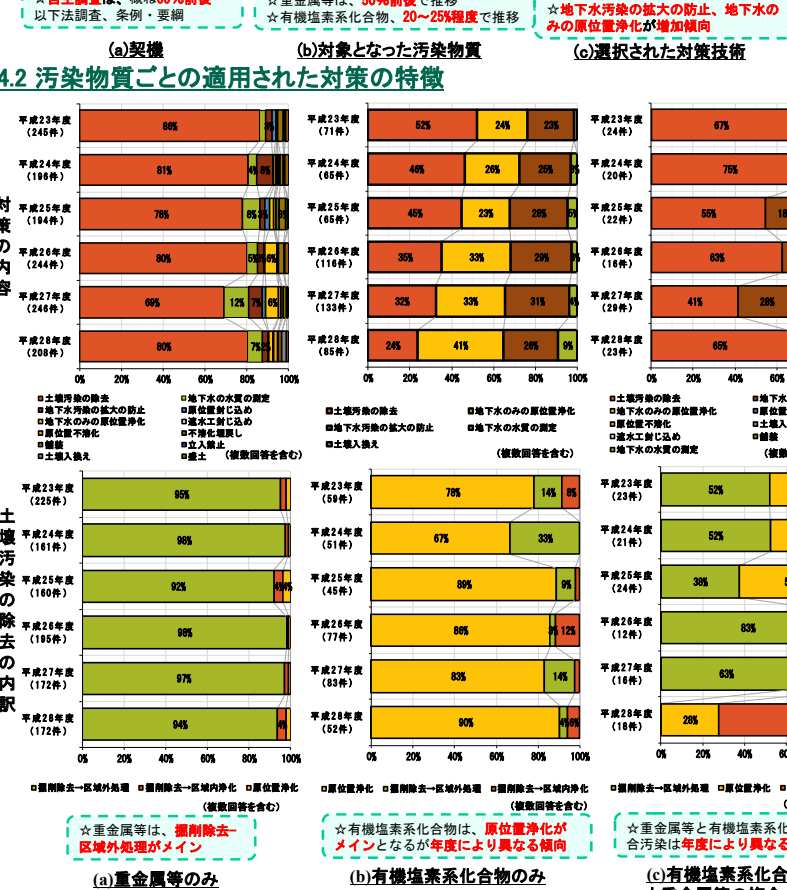
### 4.1 対策の契機・対象汚染物質と選択された対策の推移



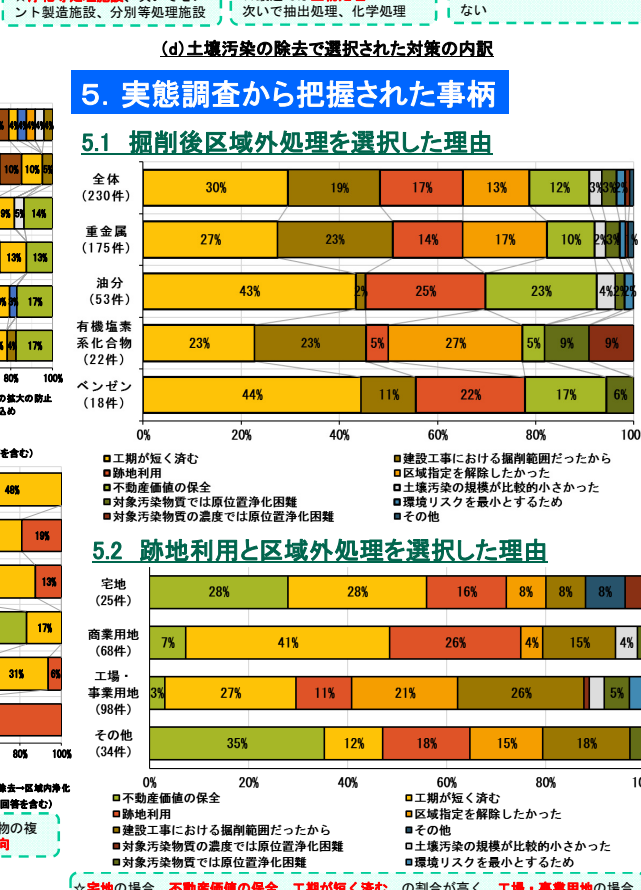
### 4.2 汚染物質ごとの適用された対策の特徴



### 4.3 土壌汚染の除去の内訳



### 4.4 土壌汚染の除去で選択された対策の内訳



## 5. おわりに

これまでの調査から、汚染物質の組合せや理由によっては、掘削除去-区域外処理ではなく、地下水の水質の測定、地下水汚染の拡大の防止、原位置浄化等の適用例が増加していることが把握され、法の意図する技術適用が浸透しつつある状況が確認された。一方、詳細な解析を行うと年度により異なる傾向がみられる点が多く確認され、新たな質問項目により制約条件や総合的な判断から対策が選択されている状況が推察できた。これらの課題を解消すべく、また、法改正内容も考慮した工夫をほどこしながら、対策が採用される状況の調査も含め、継続的に実態を把握し対策方法や技術の動向について実態把握し、技術開発や対策検討に役に立つよう図っていきたい。最後に、今回の調査にご協力頂いた土壌環境センター会員企業の皆様に感謝するとともに、今後も同様に調査への協力を頂ければ幸いである。